

〈高校生の部 佳作〉

絵手紙

福井県立武生商工高等学校 黒田 佳奈

誕生日、学校から帰ってきたらリビングに荷物を置いてもう一度玄関へ走って戻る。郵便受けの中のチラシの上に置かれたはがき。墨で書かれたメッセージとカラフルな絵、宛名面にはかわいい切手が貼られている。差出人はおばあちゃん。私の子供の頃からの楽しみだ。

おばあちゃんは私や家族の誕生日には必ず絵手紙を送ってくれる。描かれている絵は毎年違う。ドラえもんが好きだと言ったらドラえもん。好きなアーティストがいると言ったらそのアーティストの公式キャラクターのパンダを描いてくれる。高校生になった今では好きなキャラクターが分からないからか、かわいらしいアマビエやお花、ティーカップに入った紅茶などを描いてくれている。はがきではなく、縦長の和紙いっぱいにお花を描いてくれることもあった。発想もおもしろく、ただのパンダだけではなく、ふとつちよパンダや背高のつぼのパンダなどをカラフルに描いていたり、押し花や折り紙を使っていたりすることもある。メッセージも毎年、心を込めて書いてくれている。新型コロナウイルスが流行したとき、かわいらしいアマビエとともに「コロナに負けずに元気でいてね。」と書かれていた。また、高校生になった年の誕生日には「大変なこともあるけど学校生活楽しんでね。」と寄り添ったメッセージを書いてくれた。その一言で心が軽くなったような気もした。ときには冗談交じりに書かれたメッセージもあり、一人でクスクスと笑ったこともある。

しかし、宛名面に書かれた宛先と差出人の住所は全く同じ。それもそのはずだ。おばあちゃんと私は同じ家に住んでいるのだ。おばあちゃんが家に帰ってきたら毎年、「絵手紙ありがとう」と直接伝えている。私は毎年不思議に思っていた。なぜ、直接渡すのではなく郵便で送られてくるのだろう。直接渡せば切手代もかからないし、受け取ったときの表情だってちゃんと見ることが出来るはずなのに。

まだ小さいとき、一緒にお風呂に入りながら一度だけ聞いてみたこともあるが、なんとなく言っていたのかは全然覚えていない。今更聞こうにもなんだか少し気恥ずかしくて毎年先送りにしてしまっていた。しかしどうしても理由が知りたかった私は思い切って聞いてみることにした。「なんで毎年わざわざ郵便で送ってくれるの？」おばあちゃんは「郵便受けを開けるときってワクワクするでしょ？」とだけ答えた。私は納得した。おばあちゃんの言う通り、自分宛てに何かが届いているというのはとてもワクワクするものだからだ。そんなちっぽけな理由で毎年郵便局まで行ってポストに入れてくれているのだと知り心の底から嬉

しいと感じた。

一年に一度の特別で大切な日に届く一枚のはがき。年齢とともに増えていくそのはがきから私はどれだけの愛を受け取ってきたのだろう。今までにもらった絵手紙たちを見ると、おばあちゃんとの思い出で頭がいっぱいになる。一緒に寝たときのこと、お母さんには内緒で私の大好きなお菓子をもらったこと。どんなときも私とおばあちゃんは笑っていただろう。

いつか私から送る日が来たらどんな絵を描こうか、誕生花なんてどうかな。どんな色よりも目立つ黒色で大きく「いつまでも元気でいてね」なんて書いてみようかな。郵便受けを開けて手に取ったとき、どんな表情を浮かべるのかな。その時も変わらない笑顔で笑っていてくれるといいな。いつか私からも送ろうと決めたその瞬間からワクワクが止まらない。案外、送る側もワクワクするものなんだね。来年はどんな絵が描かれていてどんなメッセージが書かれている絵手紙が届くのだろう。これから先も何年もずっと楽しみに待っているね。